



発達障害の理解と支援について

「学んで！活かそう！ 発達障害 編」



令和6年11月19日（金）午後2時から「小矢部市民交流プラザ」にて、富山県発達障害者支援センター「ほっぷ」の永田香奈子様を講師にお招きし、発達障害についての学びを深めました。本人や家族、職場などで発達障害と思われる方への関わりに、日々苦慮、疲弊しているケアマネジャーが多く見受けられる中、発達障害の特徴を学び、対応のアドバイスを頂けることで、今後のケアマネジメントや職場の質の向上を図ることを目的としました。



講義内容

- ・令和5年度のセンターの実績から、16歳から50歳までの相談件数が増えており、かつ相談内容は多様化、複雑化している。センターだけでは解決できないので、多職種での連携が必要になっている。
- ・文部科学省の調査では、100人あたり8~9人の割合で発達障害の可能性があることが分かっており、とても身近な存在である。また、特性はスペクトラムであり、明確な線引きや分類はできない。十人十色と考える。
- ・見える部分（冰山）を支援しがちであるが、障害の特徴や理解に焦点を当てアプローチすることが重要である。



支援のポイント

- ・構造化すなわち「見える化」する。表示に工夫。分かることで安心して行動できる。
- ・見通しが持てるようにする。予定や手順が分かるように示したり、ルーティンを作る。
- ・伝わりやすい話し方をする 「あっちに置いてね」× 「棚の上に置いてね」○
など、シンプルかつ具体的に伝える。



意見交換

「今後の支援に活かしたいこと」や「普段の支援で工夫していること」をグループで話し合いました。

8050問題や引きこもりにも発達障害の支援のポイントを活かせば・・・

パンフレットの活用だけでは不足しているかも・・・別の用紙に理解しやすいように書き直すのも良いかも！

カレンダーを活用し、見える化。ヘルパーさんにも協力を依頼して



伝わって当たり前と思っは良くない。理解してもらうための、もう一言が大切です。

ケアマネ一人で関わろうとせず、多職種での関わりが大切です！

自己肯定感が大切なんです。一つ一つの目標達成で高めることが重要です。